

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 konno		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	A棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73番地3		
自己評価作成日	平成25年1月25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年2月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>各入居者様に合わせた対応を心掛け混乱しないように声掛けをしています。ほとんどの入居者様がホームに出て来られ他の入居様やスタッフと会話を楽しまれたりふれあいを大事にし居心地良く過ごせる様に協力し合っています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はJR陸羽東線「北浦駅」より車で10分国道108号線沿いに位置している。国道を挟んで反対側は広い見晴らしの良い田園風景である。ホームは漆喰壁と床暖房でトイレや廊下、ホール等各共有空間は広くゆったりとした建物であり、入居者は穏やかに過ごしている。「たんぽぽ祭り」には太鼓と三味線のピッ子兄弟やがまの油売り口上等ボランティア活動に地域住民と一緒に楽しんでいる。小牛田支援学校の体験学習の場として提供し交流が続いている。入居者誕生日には協力医から花のプレゼントがあり、月2回エキスパート(坂病院助産師)の方が、入居者、職員にアドバイスや医療関係の話をしている等地域に開かれた事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ )「ユニット名 A棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一回の全体ミーティングの際に「家庭的、尊厳、能力、楽しみ、地域のつながり」という理念のキーワードを確認しています。又各棟では利用者の状況で理念を再確認しています。	事業所理念5項目があり、各ユニット毎に「今できることを大切に」「一人ひとりの状況をみきわめる」を理念として玄関の壁に掲げ確認してケアに取り組んでいる。	理念は、事業所がめざすサービスのあり方を示し、日々のケアに意識して取り組み、反映されているかの振り返りが大切です。職員全体で話し合い見直しを図ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の健康祭りに利用者さんの絵手紙作品を通し参加しました。ホームで行う季節の行事には地域の方、ボランティアさんに参加をしていただき交流を図っています。	地域の敬老会、花壇作りや夏祭りに参加している。美里町「おんべこ産業祭り」で、あじコンを食べたり、顔見知りになうのを楽しみにしている。事業所で開催する「たんぽぽ祭り」は地域住民との交流の場としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援学校の職場体験を受け入れ認知症という病気、関わり方を学んで頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月、第3木曜日に開催している。町、地区長、民生委員、家族会代表、入居者様、スタッフ等の参加で広く話題を設け気軽に話してもらいホーム運営につなげています。	会議メンバーから意見、要望を頂き活発な意見交換をする双方向的な話し合いをしている。出た意見で地区の「災害時の自主防災団の体制」や漏電に備えて「電機保安協会の点検体制」の確認等に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、町の担当者に参加していただき、ホームの現状を伝え、他ホームでの様子を教えて頂いています。	介護保険更新等手続きや生保の方の書類関係等担当者と相談、助言を頂いている。地域包括支援センター主催の研修や同業者の勉強会に参加して情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛ける事なく隣の棟へも見守りで自由に行き来しています。一人でテラスに出て日光浴する入居者様もお見守りで安全に努めています。	職員は「身体拘束をしないケア」の研修に参加して弊害を理解し日々のケアに努めている。玄関の鍵に手をかけ外に出たい様子を見かけたら、そっと側に寄り一緒に行動する。徘徊する方が居るので職員の配置状況により玄関に施錠する時間帯がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加をし、学んだ事を伝達研修で職員全員で確認をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族、又は親族が居り、現在必要とする方はいないが研修等で権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時時点で説明を行い契約書を交わしている。改定がある場合には家族会開催時に説明し了承を得た上で行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出た意見、家族会で出た要望等はすぐにミーティング時に検討し実行に移すようにしています。	運営推進会議や面会時、年1回の家族会で意見、要望を聞き話し合っている。「できる事はやらせて」との意見でゴミ捨てを増やした。月1回写真と近況報告をする「たんぼぼたより」は家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや、全体ミーティングでは、利用者さんに関してだけでなく広く皆の意見を出してもらっています。	毎日のミーティングと月1回の全体ミーティングで職員の意見や要望も取り入れ話し合っている。主任や副主任と個別に面談する時もある。転倒防止のため布団に移行、電動ベッドの使用等職員の提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員、パート別、又個々人の体調、家庭環境を考慮し勤務の調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の現状に合った研修や講演会への参加の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し交流を図りつつ認知症への理解と対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様からの聞き取りで生活歴や現在の心身状況を把握し、本人との面談では気持ちに添い信頼を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	率直に何でも話していただけるような場の雰囲気作りを心掛けているとともに家族関係にも配慮し各々の気持ちを受け止めるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にスタッフで必要な援助を検討しながら援助計画を作成し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫の得意な入居者様にはお手伝いをしていただいております。経験豊かな人生の知恵をお話していただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	往診の際には御家族の方にも立ち会っていただき先生とも面談してホームと共にサポートしていただけるよう協力体制を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の法要、お墓参りに参加しています。外出が困難になってきた利用者様が多く親族の方、近所の方に訪問してもらっています。	家族と月1回温泉に行く方は別人のように明るくなって帰ってくる。美容室の送迎でカットをしてくる方もいる。ゲートボール仲間が訪ねて来た時はゆっくりできるようにする等、人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの心身状態を常に見極めお互いが助け合えるような座席を考え、声掛けに配慮し皆で集えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所の方にはお見舞いに行き経過を見ながら次の生活の場の相談にのっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人や御家族のお話しに耳を傾け、ご希望にそえるようにスタッフ一同、ミーティング等で話し合い、対応に心掛けています。	職員は日々の関わりの中で場面づくりや声かけに工夫して、不安や楽しみ等思いの把握に努めている。テーブルを叩くと入浴の催促、農家だった方は野菜作りや草取りをして頂くと笑顔になった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の様々な状況をケアマネージャーとの連携で把握し、スタッフ全員が情報を共有しミーティング時に再確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や確実な申し送りをミーティングで把握し、その都度対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングで利用者様の状況を確認し、御本人の思い御家族の意見も尊重しスタッフ皆で介護計画を作成している。	毎日の業務日誌やミーティングで話し合ったことを基に3ヶ月毎に見直し、更新時に介護計画を作成している。転倒し方に電動ベットに変更するなど、その都度見直しをしており、家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、背活の様子、申し送りノートへの各々の記入事項を徹底し、毎日のミーティングで情報を共有し検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様へ電話をかけたいと申し出があった利用者様においてはスタッフが番号を押し、利用者様が気軽に会話出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙のボランティアの先生とはすっかり顔馴染みとなり、お話しも楽しみの一つです。又題材で季節を感じ取ってもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時、利用者様、御家族様の希望で決めています。往診体制の利用者様は各々前日に状況を伝えています。	古川民主病院の往診8名他は家族対応でかかりつけ医を受診している。歩行可能の方は職員と通院している。必ず看護師が付き添いし、現状報告と医師の指示を受けている。申し送りノートに記載して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状況はミーティングや申し送りノートで常に看護師と共有しています。夜間も携帯電話で急変時対応可能な状態で御家族にも必要時はすぐ連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は診療情報等で適切な支援が出来る様にしています。又入退院時は看護師かケアマネージャーが同行し担当医、看護師との面談に同席しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の心身状況に応じて担当医、御家族、ホーム側と話し合いの場を設けている。看取りについての方針に沿って確認しながら支援を行っています。	「たんぼぼに於ける看取り介護に関する指針」「意思確認書」を成文化し、説明している。看取りの経験がある。現在ターミナルに入っている方がいる。協力医の細かい指示と看護師、職員が一体となって見守り、安心して最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導の下、応急処置の勉強会とヒヤリハットの事例から再度対応をスタッフ全員で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、地震を想定した避難訓練を実施しています。	近隣のガソリンスタンドの店長と地域住民(消防団員)の参加で年2回避難訓練(夜間想定を含)を実施している。地域の方には入居者の避難誘導をお願いしている。防災設備の定期点検を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの希望される呼び方で声を掛けています。状況や利用者様の気持ちに配慮した声掛けに努めています。居室に入る際はノックをし声を掛けてから入室しています。	入居者の動きや視線から何気なく近寄り、耳元でトイレ誘導の声がけをする。言葉使いや声のトーンには注意しプライバシーを損ねない対応をしている。呼び名は本人と話し合い名字や名前に「さん」をつけて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をいつでも伝えられる関係作りに努め、言動に注意し思いが実現出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆同じようにはなく、体調や利用者様のペースに考慮し過ごしやすい環境づくりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を決めかねている利用者様には一緒に選ぶお手伝いをしています。外出の際には帽子、バック等でおしゃれの楽しみを感じてもらおう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	青菜の選別やへた取り、下膳、食器拭きを一緒に行っています。干し柿なども作り利用者様と職員と一緒に食べています。	食事担当者が作成した献立を、調理師の社長が確認、アドバイスをを入れて職員が調理している。クリスマス会、誕生会等の行事食がある。回転すしや食べ放題の店等の外食は入居者の違った笑顔が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調によってメニュー形態、量を変更したり、排泄状況から水分量も検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に応じた口腔ケアを行っています。夕食後には義歯の方は薬剤洗浄管理をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けを行っていません。夜間はポータブルトイレを置いて一人で排泄出来るようにしています。	一人ひとりの排泄チェック表を活用してトイレ誘導をしている。オムツ2名他は布パンツ、リハビリパンツでトイレでの自立排泄を大切に支援している。夜間はポータブルトイレを使用する等個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホール内歩行やリズム体操などを日課にしています。きのこ類、煮物等を多くしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状況によって入浴、シャワー浴にする事があります。高齢の為毎日ではなく1日おきの入浴を行っています。	曜日、時間帯は要望に応じているが2日に1回の入浴を基本としている。1対1で対応しゆったり入浴を楽しんで頂けるよう支援している。普段聞けないような話しをする場もある。仲良しの友達同志で入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れない方には無理強いせず職員が一緒に付き添っています。状況に応じ量を利用している方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については個人ファイルにて情報を共有しています。薬の変更があれば申し送り確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんの協力の元絵手紙、歌などを楽しんでいます。カラオケなどでも楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や畑に自由に行き来しています。外食ツアーでは好みの物を選んで食べていただいています。御家族が来所していただいている際には一緒に買物や温泉などに行かれる方もおられます。	春の桜やばたん祭り、一迫町のアヤメ、蓮の花見物等季節を感じる外出をしている。デイサービスのバスを借り、家族も一緒に出かける時もある。日常的には周辺の散歩、買物に行く。敷地内の芝生で食事をしたり、ウッドデッキで日向ぼっこを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金をお預かりし買い物の希望があれば一緒に買い物に行き、見守りの元で買い物を楽しんでいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を使い御家族や知人にお便りを出しております。本人の希望により御家族と連絡をとっている方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄器、加湿器を利用し配慮しています。四季にあわせホール内をかざりつけています。	ホール、廊下、トイレ等各共有空間が広く、ゆったりした造りになっている。日当たり良く、空気に澱みがなく、温湿度とも快適である。床の一角にある畳仕様はバリアフリーで転倒予防の配慮がうかがえる。テレビを見たり、おしゃべりしたりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースで足をのばしたり、ソファーに座って団らんしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が作った物を置いている方、又物がある事で混乱する方は置かずに一人一人の状態に対応しています。	居室入り口に職員手作りの表札が掲げられてある。馴染みの整理ダンスや椅子、テーブルを持ち込み、仏壇、家族の写真、思い出の品等置き、その人らしい自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、風呂、クローゼットの中にはわかるように名前や物の名前を貼り、一人で行える様にしています。移動スペースには物を置かずに広くしています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 konno		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73番地3		
自己評価作成日	平成25年1月25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年2月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の入退所が多く、入所者様も混乱する場面が多々見られます。スタッフは各人に合った声掛け対応を心掛けています。入居者様どうしの交流も多く、就寝の際以外はほとんどの入居者様が共有スペースのホールに出て来られ、各々テレビを見たり他入居者様やスタッフと談笑したり、レクリエーションをしたりと笑顔、ふれあいの多い棟です。入居者様、スタッフ共に居心地良く過ごせる様、又生き生きと過ごせる様に皆が協力合っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR陸羽東線「北浦駅」より車で10分国道108号線沿いに位置している。国道を挟んで反対側は広い見晴らしの良い田園風景である。ホームは漆喰壁と床暖房でトイレや廊下、ホール等各共有空間は広くゆったりとした建物であり、入居者は穏やかに過ごしている。「たんぽぽ祭り」には太鼓と三味線の疋騨兄弟やがまの油売り口上等ボランティア活動に地域住民と一緒に楽しんでいる。小牛田支援学校の体験学習の場として提供し交流が続いている。入居者誕生日には協力医から花のプレゼントがあり、月2回エキスパート(坂病院助産師)の方が、入居者、職員にアドバイスや医療関係の話をしている等地域に開かれた事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ )「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一回の全体ミーティングの際「家庭的、尊厳、能力、楽しみ、地域のつながり」という理念のキーワードを確認しています。又各棟では利用者の状況で理念を再確認しています。	事業所理念5項目があり、各ユニット毎に「今できることを大切に」「一人ひとりの状況をみきわめる」を理念として玄関の壁に掲げ確認してケアに取り組んでいる。	理念は、事業所がめざすサービスのあり方を示し、日々のケアに意識して取り組み、反映されているかの振り返りが大切です。職員全体で話し合い見直しを図ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の健康祭りに入居者様の絵手紙作品を通じ参加しました。ホームで行う季節の行事、秋のお祭りには地域の方、ボランティアさんの参加をいただき交流を図っています。	地域の敬老会、花壇作りや夏祭りに参加している。美里町「おんべこ産業祭り」で、あじコンを食べたり、顔見知りになうのを楽しみにしている。事業所で開催する「たんぽぽ祭り」は地域住民との交流の場としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職場体験を受け入れ認知症という病気、関わり方を学んでいただいている。又ボランティアさんにも職員が受けた研修の話しをさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月、第3木曜日に開催している。町、地区長、民生委員、家族会代表、入居者様、スタッフ等の参加で広く話題を設け気軽に話してもらいホーム運営につなげています。	会議メンバーから意見、要望を頂き活発な意見交換をする双方向的な話し合いをしている。出た意見で地区の「災害時の自主防災団の体制」や漏電に備えて「電機保安協会の点検体制」の確認等に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回町の担当者に参加していただきホームの現状を伝え他ホームでの様子を教えていただいています。	介護保険更新等手続きや生保の方の書類関係等担当者と相談、助言を頂いている。地域包括支援センター主催の研修や同業者の勉強会に参加して情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏状態になり、外に出てしまう入所者の方がいます。車通りの多いバイパスが近い為入浴時などの手薄になる時間帯のみ玄関に施錠をしています。	職員は「身体拘束をしないケア」の研修に参加して弊害を理解し日々のケアに努めている。玄関の鍵に手をかけ外に出たい様子を見かけたら、そっと側に寄り一緒に行動する。徘徊する方が居るので職員の配置状況により玄関に施錠する時間帯がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ虐待防止について伝達研修を通してスタッフ全員で確認しています。又日々の入居者様の状況を踏まえミーティングでも確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族、又は親族が居り、現在必要とする方はいないが研修等で権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点で説明を行い契約書を交わしている。改定がある場合には家族会開催時に説明し了承を得た上で行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時、御家族様だけで話し合いの場を設け要望等を出してもらっています。又、家族来訪時に出た意見はすぐにミーティング時に検討し実行に努めています。	運営推進会議や面会時、年1回の家族会で意見、要望を聞き話し合っている。「できる事はやらせて」との意見でゴミ捨てを増やした。月1回写真と近況報告をする「たんぼぼたより」は家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや主任会議において意見、要望を出しています。検討の上実施されています。	毎日のミーティングと月1回の全体ミーティングで職員の意見や要望も取り入れ話し合っている。主任や副主任と個別に面談する時もある。転倒防止のため布団に移行、電動ベットの使用等職員の提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員、パート別、又家庭環境や個々の体調等を考慮し勤務時間、収入の調整をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や現場での対応等を把握し、必要な研修や講演会へ参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し交流を図りつつ認知症への理解と対応について学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族から今までの生活状態や現在の心身状況を把握し本人との会話等で気持ちに寄り添いながら信頼を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の御家族や入居者様から何でも話していただけるような雰囲気作りを心掛け御家族の介護の困っていること不安なことを要望等に寄り添いながら信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントも基にスタッフ間で援助、支援を検討し援助計画を作成し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、食事の下膳、テーブル、食器拭き、生活全般の出来る事を手伝っていただいている。ボール遊びや歌を歌ったり一緒に楽しんでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様からの要望や家族からの支援の要望等を取り入れ入居者様のより良い生活環境を整え御家族と入居者様の絆を大切にし共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会や施設のイベント等に参加しこれまで生活してきた馴染みの方々と交流する時間を作っています。	家族と月1回温泉に行く方は別人のように明るくなって帰ってくる。美容室の送迎でカットをしてくる方もいる。ゲートボール仲間が訪ねて来た時はゆっくりできるようにする等、人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で一人一人に声をかけ歌を歌ったり、リハビリ体操をする時間の中で各入居者様が支えあえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所の方にはお見舞いに行き経過を見ながら次の生活の場の相談にのっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の行動や言動を理解し一人一人の入居者様が生活しやすいようミーティングで共有し対応に心掛けています。御家族の声にも耳を傾けその希望に対応できるように努めています。	職員は日々の関わりの中で場面づくりや声がけに工夫して、不安や楽しみ等思いの把握に努めている。テーブルを叩くと入浴の催促、農家だった方は野菜作りや草取りをして頂くと笑顔になった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の状況を居宅のケアマネージャーとの連携で把握してスタッフ全員が情報を共有しミーティング時再確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケースの記録や確実な申し送りをミーティングでスタッフが共有しその都度対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングでスタッフ間で入居者様の状況を確認し入居者様の立場に立ち御家族の意見も尊重し皆で介護計画を作成しています。	毎日の業務日誌やミーティングで話し合ったことを基に3ヶ月毎に見直し、更新時に介護計画を作成している。転倒し方に電動ベットに変更するなど、その都度見直しをしており、家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、生活の様子、申し送りノートへの記入事項を徹底し毎日のミーティングで情報を共有し検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院がリフトカーでしか行けない利用者様にはデイサービスからリフトカーを借りて来て対応しています。ペットの貸し出しなどをし、家族が泊まる事への対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの皆様や支援学校の実習の受け入れなどのレクリエーション等を楽しんでいただき暮らしを楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や御家族様の希望を聞き又相談の上今迄の主治医かホームの担当医にするか決めていただく。通院、往診にも可能な限り同席していただくようにしている。	古川民主病院の往診8名他は家族対応でかかりつけ医を受診している。歩行可能の方は職員と通院している。必ず看護師が付き添いし、現状報告と医師の指示を受けている。申し送りノートに記載して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況はミーティングや申し送りノートで常に看護師と共有しています。夜間や急変時にも対応可能な状態で御家族にも必要時にはすぐ連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は診察情報等で適切な支援が行えるようにしています。入退院時は看護師やケアマネージャーが同行し担当医、看護師の面談に同席しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状況に応じて担当医、御家族、ホーム側と話し合いの場を設けています。看取りについての指針に沿って確認しながら支援を行っています。	「たんぼぼに於ける看取り介護に関する指針」「意思確認書」を成文化し、説明している。看取りの経験がある。現在ターミナルに入っている方がいる。協力医の細かい指示と看護師、職員が一体となって見守り、安心して最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導の下、応急処置の勉強会等で備えています。事故発生についてはヒヤリハットの事例から再発防止対応をスタッフ全員で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、運営推進会議を通じて地域の区長、近隣住民などに呼び掛け避難訓練を年2回実施しています。	近隣のガソリンスタンドの店長と地域住民(消防団員)の参加で年2回避難訓練(夜間想定を含)を実施している。地域の方には入居者の避難誘導をお願いしている。防災設備の定期点検を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人が使用する居室で充実にした生活が過ごせるように努めています。利用者様と会話する中でも指示的な声掛けにならないよう話し方に配慮しています。	入居者の動きや視線から何気なく近寄り、耳元でトイレ誘導の声がけをする。言葉使いや声のトーンには注意しプライバシーを損ねない対応をしている。呼び名は本人と話し合い名字や名前に「さん」をつけて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で決定的に話すのではなくいくつか選択肢を用意し利用者様自身が選択できるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のスペースや一人一人のペースにを大切に1日1日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは入居者様に服を選んでいただくようにしています。髪型も鏡を用いてセットしています。一部天候などによりスタッフが選ぶ時があります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が出来る事をお手伝いしていただいています。消毒や下膳、食器拭き、テーブル拭き等スタッフと一緒にしています。	食事担当者が作成した献立を、調理師の社長が確認、アドバイスをを入れて職員が調理している。クリスマス会、誕生会等の行事食がある。回転すしや食べ放題の店等の外食は入居者の違った笑顔が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の一人一人に合わせ血圧が高い方には減塩、味付けに注意しています。入れ歯を使用していない方には軟らかめの食事に工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様に応じた口腔ケアを行っています。夕食後、義歯の方には薬剤洗浄管理を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	活動の節目の際などにスタッフの声掛け又、自らトイレに行き排泄を行っています。車椅子の方もトイレの際は立ち上がっていただき排泄をしていただいています。	一人ひとりの排泄チェック表を活用してトイレ誘導をしている。オムツ2名他は布パンツ、リハビリパンツでトイレでの自立排泄を大切に支援している。夜間はポータブルトイレを使用する等個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回はレクリエーションとして便秘解消運動を取り入れ笑い、歌を多くしています。温野菜を多く取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1~2日おぎに入浴しています。入浴の気分が乗らない際は無理に強要せず別の日に入らせていただくなど臨機応変に対応しています。浴室で歌が聴ける装置もあるのでそれを活用し浴室で歌を聴きながら入浴する事もあります。	曜日、時間帯は要望に応じているが2日に1回の入浴を基本としている。1対1で対応しゆったり入浴を楽しんで頂けるよう支援している。普段聞けないような話をする場もある。仲良しの友達同志で入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏状態の方には添い寝をしたり眠れない方には一緒に会話をしたりその人のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理しています。病気と薬についてはケアマネジャーからの説明を受け状況が変われば看護師、ケアマネジャーを交えミーティングで皆で把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとにイベントを設けており入居者様の皆様に季節を感じてもらっています。食事のメニューに関しても入居者の方々から希望を聞き方寄りのない食生活をして頂き気分転換などをしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物の際に入居者様と一緒に外出に努めています。入居者の方々の中に遠出が出来ない方もいらっしゃる為その方々には散歩などにて屋外に出て頂き地域の方々との交流に努めています。	春の桜やばたん祭り、一迫町のアヤメ、蓮の花見物等季節を感じる外出をしている。デイサービスのバスを借り、家族も一緒に出かける時もある。日常的には周辺の散歩、買物に行く。敷地内の芝生で食事をしたり、ウッドデッキで日向ぼっこを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的にパン屋さんが来ており自分で欲しいパンを選んで買っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を渡し居室で会話を楽しんでいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基礎暖房を入れており共用スペースすべてが同じ温度でヒートショックの防止をしています。四季折々で飾りを変え冬期間のイルミネーションや季節の花々などを飾っているのを見て入居者の方々にも喜んでいただいています。	ホール、廊下、トイレ等各共有空間が広く、ゆったりした造りになっている。日当たり良く、空気に澁みがなく、温湿度とも快適である。床の一角にある畳仕様はバリアフリーで転倒予防の配慮がうかがえる。テレビを見たり、おしゃべりしたりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファを置き自由に座りながら談笑を楽しめる様にしています。各入居者様に合わせて席替えやテーブルの配置を変えるという工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活し使い慣れた物を使用しあまり生活の変化を感じないように過ごしていただいています。又使い慣れた物があると混乱する入所者様には新しい環境でその入居者様に合わせて対応しています。	居室入り口に職員手作りの表札が掲げられてある。馴染みの整理ダンスや椅子、テーブルを持ち込み、仏壇、家族の写真、思い出の品等置き、その人らしい自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、お風呂場等スペースに解かるように名前を貼り一人で自由に行けるようにしています。移動スペースには物を置かないようにして転倒防止に努めています。		